無印良品

ステンレスユニットシェルフ　ステンレス棚セット
スチールユニットシェルフ　　スチール棚セット(グレー)/(ダークグレー)
ミニ・小・中・大・ワイドミニ・ワイド小・ワイド中・ワイド大（※ミニ・ワイドミニはスチール棚セット（グレー）のみの取り扱いとなります。）
(HL5603-SS)(HL5604-SS)(HL5605-SS)(HL8403-SS)(HL8404-SS)(HL8405-SS)
(FT5603M-40GY)(FT5603-40GY)(FT5604-40GY)(FT5605-40GY)(FT8403M-40GY)(FT8403-40GY)(FT8404-40GY)(FT8405-40GY)(FT5603-40DG)(FT5604-40DG)(FT5605-40DG)(FT8403-40DG)(FT8404-40DG)(FT8405-40DG)

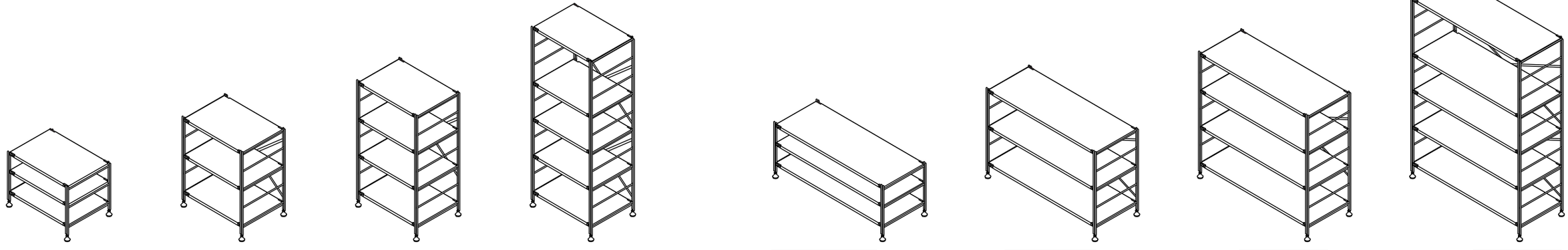
組立・取扱説明書

- お買い上げありがとうございました。
- 組立て・ご使用の前に当説明書をお読みください。
- 組立て後は本書を大切に保管してください。

⚠ 注意	**組み立ての前に必ずお読みください**
	※組み立ては２人以上で行ってください。 ※組み立てに充分な場所を確保し、敷き物を敷く等して床や既存の家具に傷が付かない様、注意して行ってください。 ※ボルトを電動工具で締め付けると過剰な力がかかり破損することがありますので、必ず付属の六角レンチをご使用ください。

※この組立説明書はワイド大で作成されていますがミニ、小、中、大、ワイドミニ、ワイド小、ワイド中、でも手順は同じです。

完成図



ミニ　小　中　大　ワイドミニ　ワイド小　ワイド中　ワイド大

※ミニ・ワイドミニはスチール棚セット（グレー）のみの取り扱いとなります。

パーツチェックリスト

	ミニ / ワイドミニ	小 / ワイド小	中 / ワイド中	大 / ワイド大
A 帆立	2	2	2	2
B 棚板	3	3	4	5
C クロスバー		2	2	4
D アジャスター	4	4	4	4

※スチールタイプはＡ帆立に取り付け済みです。

※細かい部品は予備として多めに入っている事があります。

フィッティングチェックリスト

	ミニ / ワイドミニ	小 / ワイド小	中 / ワイド中	大 / ワイド大
E ボルト（クロスバー中心用）		1	1	2
F 袋ナット（クロスバー中心用）		1	1	2
G ボルト		4	4	8
H 座金		4	4	8
I 六角レンチ	1	1	1	1

耐荷重表

	棚1枚	棚全体		棚1枚	棚全体
ミニ	約30kg	約30kg	ワイドミニ	約30kg	約30kg
小	約30kg	約50kg	ワイド小	約30kg	約50kg
中	約30kg	約75kg	ワイド中	約30kg	約75kg
大	約30kg	約100kg	ワイド大	約30kg	約100kg

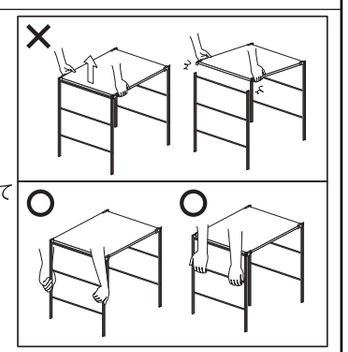
スチール棚板・ステンレス棚板は、製造工程で多少の歪みが生じている場合がありますが、組立て後は歪みが矯生されますので、そのままネジで固定してください。

⚠ご使用の前に必ずお読みください。

■本製品の棚板は可動棚です。組立後に棚板を持ち上げますと外れる危険性があります。棚がはずれて物が落ち、思わぬケガや器物破損の原因になる事があります。

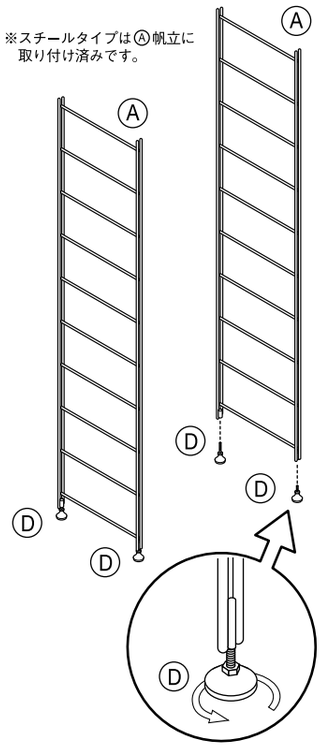
■組立後の移動は必ず収納物を取り除いてから２名以上で左右から帆立部分をしっかり持って慎重に移動してください。棚がはずれて物が落ち、思わぬケガや器物破損の原因になる事があります。

■床面を引きずったり、押したりしないでください。床面のキズや破損の原因になる事があります。



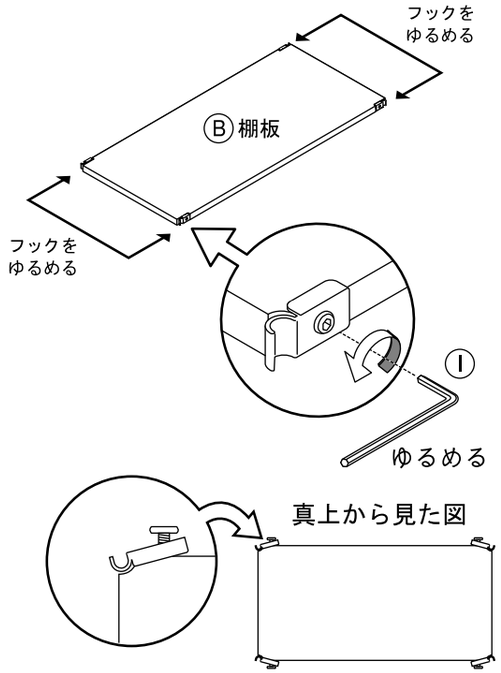
20051229
登録実用新案第3099401号

1 Ⓓアジャスターを Ⓐ帆立に取り付けてください。



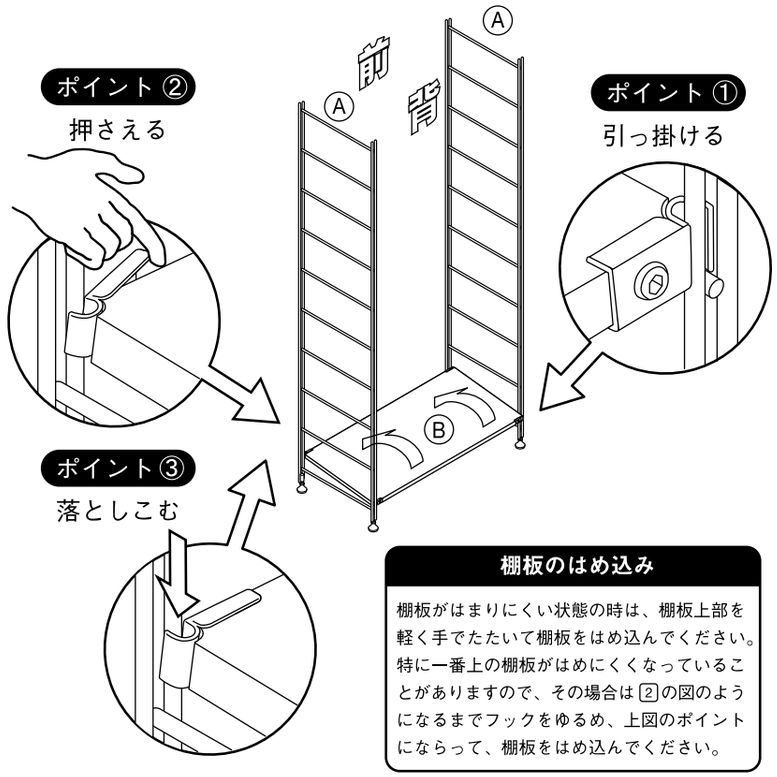
※高さ175.5cmタイプの帆立にキャスターのご使用はお避けください。

2 Ⓑ棚板の四隅に固定されているフックのネジをそれぞれ、Ⓘ六角レンチでフックが自由に動く状態までゆるめてください。



※棚の全てのフックのネジが上図のような状態になるまでゆるめ、フックがハの字になるようにしてください。

3 Ⓑ棚板を斜めにし背面のフック2箇所をまずⒶ帆立の帆立柱に引っ掛け、ポイント① 前面のフックを指で手前に押さえながら ポイント② 帆立柱に引っ掛けて落とし込みます。 ポイント③



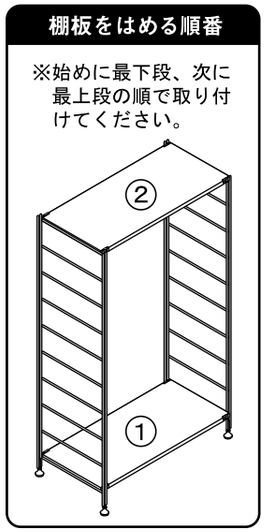
棚板のはめ込み

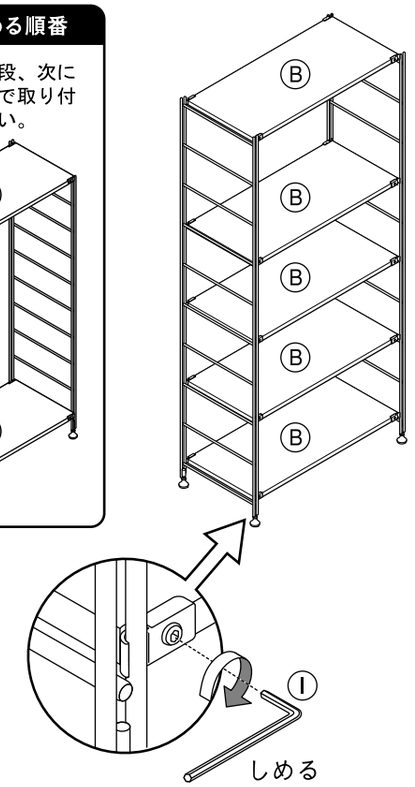
棚板がはまりにくい状態の時は、棚板上部を軽く手でたたいて棚板をはめ込んでください。特に一番上の棚板がはめにくくなっていることがありますので、その場合は 2 の図のようになるまでフックをゆるめ、上図のポイントにならって、棚板をはめ込んでください。

4 同じ要領ですべてのⒷ棚板をはめてから、それぞれの棚板のフックのネジを、前面、背面と交互に少しずつ締め込んでください。

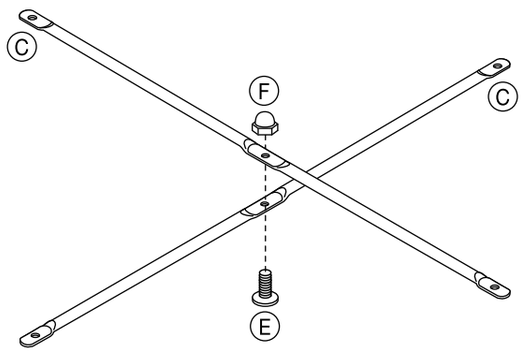
棚板をはめる順番

※始めに最下段、次に最上段の順で取り付けてください。

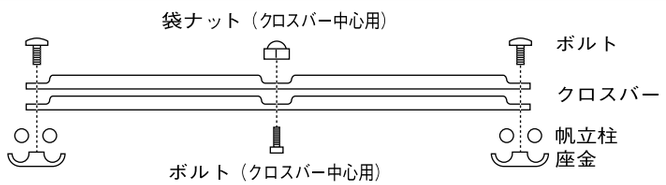




5 Ⓒクロスバーの中心を重ねてⒻ袋ナット（クロスバー中心用）とⒺボルト（クロスバー中心用）で仮止めします。

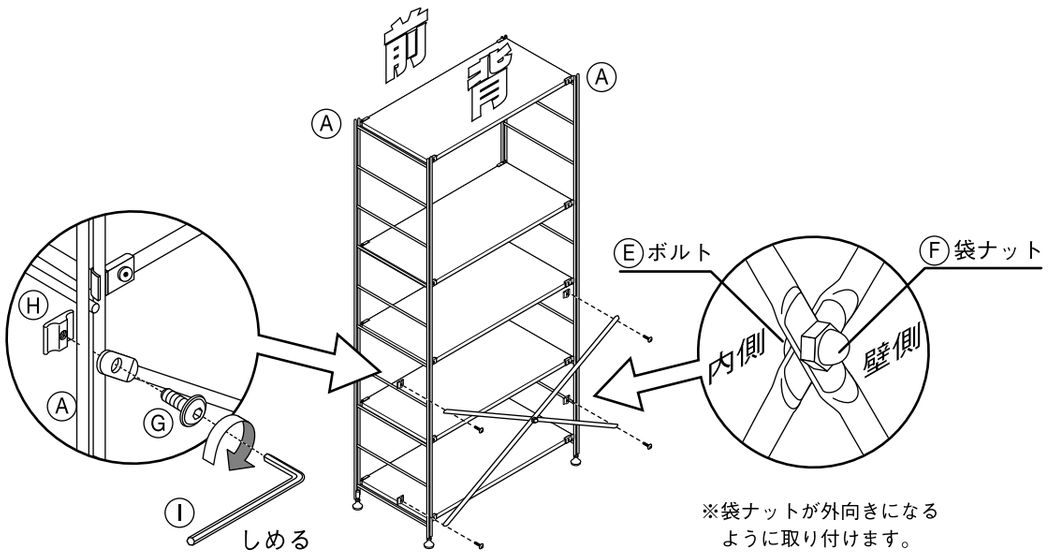


クロスバーの重ね方



※それぞれのクロスバーの向きを上図のように重ねてください。
平らなほうからボルトを通し、へこんでいるほうを袋ナットで仮止めします。尚、クロスバーには上下の区別はありません。

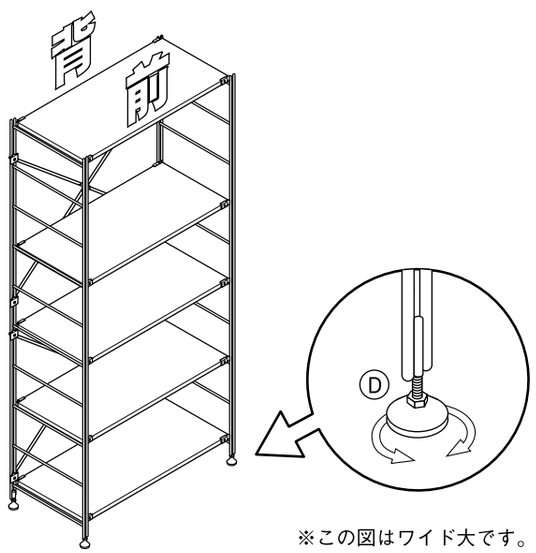
6 組立てたクロスバーを、背面からⒽ座金とⒼボルトでⒶ帆立に固定します。最後にⒷ棚板のフックのネジとクロスバーのⒺⒼボルトをⒾ六角レンチで増し締めします。



※袋ナットが外向きになるように取り付けます。

※棚板のフックのネジは、前面、背面と交互に少しずつ締めるようにしてください。
一箇所きつく締めてしまうと棚がゆがんで装着され、最後のフックが締めにくくなります。

7 商品設置後に商品がガタつかないよう、Ⓓアジャスターで調節してください。



※この図はワイド大です。

ワイド大、大は2組のⒸクロスバーを使用しますが、
ワイド小、ワイド中、小、中は1組のⒸクロスバーを使用します。
またワイドミニ、ミニはⒸクロスバーは使用しません。

ステンレス素材について

ヘアライン仕上げのステンレス素材はその美しさの反面、傷が目立ちやすいという特徴がありますが、使用上はまったく問題はありません。

■使用上の注意

・ステンレスは鉄と比べて、強度が高く錆びにくい性質を持っていますが、表面は傷がつきやすいので、取扱いには注意して下さい。

・ステンレスは素地のまま（塗装無し）で使用しますので、清掃の際には下記の手入れ方法を守って使用してください。

・濡れた包丁や缶詰、鉄製の鍋などを長時間放置すると、サビが発生（もらいサビ）することがあります。

・鉄やアルミ等の異種金属製品と接触させたまま長期間放置すると、サビの原因となりのでご注意ください。

■手入れ方法

① 汚れた場合

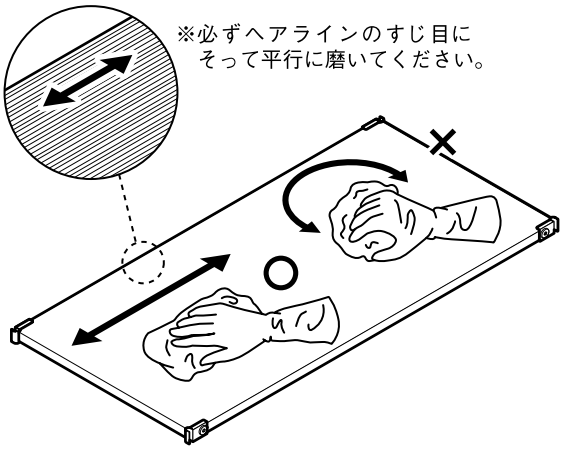
・ぬれた布などで汚れを拭き取った後、乾いた布で拭いて下さい。

・こびりついた汚れの場合は市販されているステンレス専用クリーナー等を購入して、お手入れを行なってください。

② ステンレス棚板の上手な磨き方

・ヘアライン加工のすじ目にそって平行に磨いてください。
目に逆らったり、部分的にこすったりすると、汚れも落ちにくく、ヘアラインを崩すことになります。

※金属たわしやナイロンたわしなどは傷がつくので使わないでください。



※上図はステンレスユニットシェルフ・ステンレス棚板ですが、他の製品も同様に行なってください。